古代、国際色あふれる豊かな文化が花開いた奈良。
いにしえの都を舞台にくり広げられる、竜神に愛された乙女の物語。

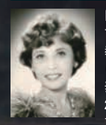
生涯をバレエに捧げ2021年10月に永眠した牧阿佐美が、最後に手掛けた全幕振付作品（2021年文化勲章受章）。
2016年に新制作した本作は、洋画家で同じく2021年に文化勲章を受章した絹谷幸二氏の美術、映像デザイナーの榎本二郎氏のプロジェクション・マッピング技術により斬新な美しさを生み出しました。
映像演出によって創り上げる舞台空間は、ファンタジーの世界に繋がる壮大ないにしえの都。クラシック音楽の聖地として名高い東京文化会館の充実した舞台に、日本の伝統文化の美が広がる新しいバレエの世界。物語は古代の日本、大陸との交流盛んな時代として描かれる飛鳥を舞台に、芸術を象徴する竜と人間のドラマが繰り広げられます。
青山季可・中川郁・清瀧千晴は、2019年の海外公演に続き、東京では初めて主役として登場。初演から竜神を演じる菊地研、全くの初役の水井駿介らと共に、牧阿佐美への追悼の思いを舞台に捧げます。

あらすじ

いにしえの都、大陸との交流盛んな国際都市・飛鳥。美（芸術）と権威の象徴である竜神を祀るお宮に仕える舞女のたちの中で、春日野すがる乙女は一番の舞の手で大変美しい乙女でした。すがる乙女は竜神へ舞を奉納する栄誉を与えられますがそれは即ち、竜神の妃となり、二度と再び地上に戻ることは出来ないということ。すがる乙女は終生を芸術の神に仕えようと心に決めるのでした。一方、幼なじみの岩足（いわたり）は、美しく成長したすがる乙女の舞を見て思いを抑えられず、こぶしの花を差し出し愛の心を伝えますが、すがる乙女の決意は変わらず、竜神と共に昇天してゆきました。しかし竜の棲む深山に咲くこぶしの花を見つけると不意に、岩足への激しい慕情にかきたてられます・・・

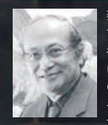
日本の美とバレエの融合
迫力の映像演出で描く壮大なバレエファンタジー

振付家 牧 阿佐美（まき あさみ）



日本のバレエ界の草分け、橘秋子の長女。4歳で初舞台、15歳でデビュー公演。米国留学でアレクサンドラ・ダニロワ、ピエール・ウラジミーロフら、ロシア帝室バレエの著名なダンサー・教師に学び、創作から古典まで多くの作品に主演。「ブガク」（黛敏郎・曲）、「トリプティーク」（芥川也寸志・曲）など多くの創作や古典の全幕作品を振り付けた。指導者としても日本を代表する多くのダンサーを育成している。1999年から11年間、新国立劇場舞踊芸術監督、2001年から同劇場バレエ研修所所長を務めた。フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章、文化功労者、文化勲章受章。2021年10月20日逝去、従三位に叙せられた。

洋画家 絹谷 幸二（きぬたに こうじ）



奈良市生まれ。東京藝術大学絵画科油画卒業、同大学院を修了後のイタリア留学で古典技法アフレスコを習得。その技法を独自のものとしながら、画家自身にたぎるエネルギーを表出したかのような奔放かつ鮮烈な絵画表現。人物画でスタートしたその画業は、ヴェネツィア風景、富嶽などの多様な展開を見せながら、近年は古事記をはじめ日本の神話、信仰を背景とする精神世界を追求するなど、さらなる円熟の境地に達している。1997年、長野冬季五輪の公式ポスターを手掛ける。日本芸術院会員、独立美術協会会員、東京藝術大学名誉教授、文化功労者。2021年文化勲章受章。

指　揮 デヴィッド・ガルフォース　**演　奏** 東京オーケストラMIRAI

改訂演出・振付 牧 阿佐美（「飛鳥物語」1957年初演台本・原振付：橘秋子）　**作　曲** 片岡 良和　**美術監督** 絹谷 幸二　**映像演出** ZERO-TEN（ゼロテン）

照明プラン 沢田 祐二　**芸術監督** 三谷 恭三

キャスト

春日野すがる乙女

<3日> 青山季可

<4日> 中川郁

岩　足

<3日> 清瀧千晴

<4日> 水井駿介

竜　神

<3日・4日> 菊地研

黒　竜

<3日> 佐藤かんな

<4日> 田切眞純美

竜神の使い

<3日・4日> ラグワスレン・オトゴンニャム

竜　剣

<3日・4日> 阿部裕恵

日高有梨　茂田絵美子　織山万梨子　久保茉莉恵　三宅里奈　光永百花　阿部千尋　上中穂香　西山珠里　高橋万由梨　今村のぞみ　檀上侑希　佐伯可南子山本翔子　成澤ガリムーリナ・マイカ
石田亮一　中島哲也　細野生　濱田雄冴　米倉大陽　近藤悠歩　鈴木真央　石山陸　逸見智彦　塚田渉　京當侑一籠　他 牧阿佐美バレエ団